

アセタミプリド水溶剤及びスピネトラム水和剤は モモハモグリガの被害抑制に有効である

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

- 1 部門名 果樹－モモ－病害虫防除
- 2 担当者名 中村傑、吉田昂樹、高橋佳大
- 3 要旨

モモの生産現場では、モモハモグリガの被害が問題となっており、多発生時、特に防除適期を逸した場合や放任園などからの飛来により、齢期が進んだ幼虫が混在する状況で卓効を示す剤が少ない現状にある。アセタミプリド水溶剤（商品名：モスピラン顆粒水溶剤）及びスピネトラム水和剤（商品名：ディアナWDG）は、このような条件下における被害抑制に有効であることが明らかとなった。

- (1) 2020年に、モモハモグリガ1～3齢幼虫の被害を受けている新梢にハンドスプレーを用いて、アセタミプリド水溶剤 4,000倍及びスピネトラム水和剤 10,000倍を散布し、モモハモグリガの被害状況について調査し、被害度及びその増加率を算出した。
- (2) アセタミプリド水溶剤及びスピネトラム水和剤の被害度の増加率は、無処理区の半分以下であり（表1）、モモハモグリガの被害抑制に有効であることが示された。

表1 モモハモグリガに対するアセタミプリド水溶剤及びスピネトラム水和剤の防除効果（2020年）

供試薬剤	希釈 倍数	調査日	長さ別マイン ^{※2} 数			脱出痕 ※3	被害度 ※4	被害度の 増加率 ^{※5}
			<1cm	1-3cm	3cm<			
アセタミプリド水溶剤	4,000	散布前日 (7/13)	25.7	9.0	14.3	2.3	96	139
		散布7日後 (7/21)	32.0	11.0	3.7	17.0	133	
スピネトラム水和剤	10,000	散布前日 (7/13)	36.0	7.5	8.0	6.0	99	81
		散布7日後 (7/21)	22.5	9.0	8.0	4.0	81	
無処理	—	散布前日 (7/13)	20.3	12.3	11.3	3.7	94	305
		散布7日後 (7/21)	13.0	12.3	13.7	51.7	285	

- ※1 数値は3反復の平均値。ただし、スピネトラム水和剤は2反復の平均値
- ※2 マインは、モモハモグリガ幼虫が葉の内部を食害し掘り進んだ痕のことを示す。
- ※3 脱出痕は、モモハモグリガ幼虫が蛹化するために葉から外部に脱出した痕を示す。
- ※4 被害度 = (<1cm×1) + (1-3cm×2) + (3cm <×3) + (脱出痕×4)
- ※5 被害度の増加率 = 散布7日後被害度 ÷ 散布前日被害度 × 100
なお、スピネトラム水和剤の被害度の減少は被害葉の落葉が理由である。

- 4 成果を得た課題名
 - (1) 研究期間 平成27～令和7年度
 - (2) 研究課題名 果樹病害虫の防除法改善試験
- 5 主な参考文献・資料
なし